

岐阜市

乳がん患者が最新治療学ぶ



オンラインで乳腺外科医から乳がんの治療法などを聞く会員ら＝岐阜市太郎丸、吉祥寺

県内の乳がん患者らで活動する「あけぼの岐阜」は25日、岐阜市太郎丸の吉祥寺で、乳腺外科医から乳がんの最新治療を学ぶ講演会を行った。緊急事態宣言下のため、オンライン開催し約70人が参加した。

乳がんの早期発見・治療を啓発する10月のピンクリボン月間を前に、「乳弁天」とも呼ばれ、乳にまつわる伝説のある同寺を会場に開

催した。橋渡智美会長は「コロナ禍で昨年はやむなく中止にした。患者にとって治療の最新情報を聞き、学ぶことは病気と向き合う力になる」と話した。当初は、患者同士の対話も行いたいと、対面での勉強会を検討していたが、宣言下でオンラインとなった。

講演会では同団体の顧問医も務める、乳腺外科医の二村学岐阜大病院臨床教授

が、コロナ禍での乳がん検診、治療への影響などを話した。昨年は、特に新型コロナウイルス感染症の第1波が到来した時期に、乳がん検診の受診率が大きく落ち込んだことを取り上げ「検診の遅れは診断の遅れにつながり、死亡リスクも上がる」と危惧し、定期的な検診を呼び掛けた。

また、乳がんは脇のリンパ節に転移することがあり、新型コロナウイルスでも副反応でリンパ節が腫れることがあるため、正しく診断するために「検診や手術前にワクチン接種をした場合には、医師に伝えてほしい」と話した。岩田広治愛知県がんセンター病院乳腺外科部長は最新治療薬について解説した。

(小森孝美)